

序

刊行にあたって—これまでの略史と本書の位置づけ

この100年の土木学会の10大エポック プラス ワン —編集特別委員会選定—

執筆者一覧

目次	i
土木学会歴代会長紹介（1914～2014）	1
第1部 総論—土木学会が果たしてきた役割—	19
はじめに	19
第1章 土木および土木工学	19
1.1 「土木」の由来	19
1.2 土木工学とは	21
1.3 土木改名に係る議論	29
第2章 学会創立の意義と活動内容の変遷	32
2.1 土木学会独立の経緯	32
2.2 活動内容の変遷	34
2.2.1 大正時代[1914（創立年）～1926]の活動概要	34
2.2.2 昭和時代前期（1927～1945）の活動概要	35
(1) 支部設立	35
(2) 示方書作成	35
(3) 用語調査	36
(4) 国際対応の先駆	36
(5) 土木史編纂	36
(6) 土木技術者の信条・土木技術者の実践要綱	37
(7) 災害調査報告	38
(8) 幻の東京オリンピックから戦時体制へ	38
2.2.3 第二次世界大戦後（1945～1994）の活動概要	38
(1) 学会の顔としての学会誌	38
(2) 旺盛な出版活動	39
(3) 新しい学問の育成	40
(4) 国際化への積極姿勢	41
(5) 開かれた土木学会	41
(6) 80周年記念—21世紀へ向けて—	42
2.2.4 創立80周年以降（1995～2014）の活動概要	43
(1) 改革策に基づく活動	43
(2) 調査研究活動の拡充	43
(3) 土木学会論文集改革	44

(4) 緊急災害調査	45
(5) 社会とのコミュニケーション	46
(6) 国際戦略に基づく活動	47
(7) 土木技術者の資質向上	48
(8) 会員増強・確保・サービス向上	49
(9) 公益社団法人への移行	51
(10) 100周年記念事業“豊かなくらしの礎をこれまでも、これからも”	52
第3章 土木学会の役割	54
3.1 土木学会とは	54
3.1.1 構成と特徴	54
3.1.2 土木学会の役割	54
(1) 学術・技術の進歩への貢献	55
(2) 国内・国際社会に対する責任・活動	55
(3) 技術者資質と顧客満足度の向上：Societyとしての機能	55
3.2 土木学会のテーマの変遷	55
3.2.1 会長講演	55
3.2.2 全国大会における会長特別講演	57
3.2.3 総会での特別講演	59
3.2.4 会長提言特別委員会	60
3.2.5 学会誌の特集テーマ	61
第4章 学会の運営方針・組織の変遷	72
4.1 学会運営の基本方針の変遷	72
4.1.1 定款等の基本規程の変遷	72
4.1.2 「定款」に見る活動目的・事業の変遷	75
(1) 目的の変遷	77
(2) 事業の変遷	77
4.1.3 運営組織の変遷	78
4.1.4 委員会数の変遷	82
4.1.5 年次学術講演会の講演部門区分の変遷	84
4.1.6 土木技術者の倫理規定	85
4.1.7 土木図書館と技術推進機構	88
(1) 土木図書館	88
(2) 技術推進機構	89
4.1.8 公益社団法人化	90
(1) 公益法人改革と学会活動	90
(2) 新法人移行のための準備	91
(3) 公益認定申請	92
(4) 宣言：公益社団法人への移行にあたって	92
4.2 役員選任方法の変遷	98
4.2.1 現行の役員候補者選出の手順	98

(1) 理事候補者	100
(2) 監事候補者	100
(3) 会長候補者・次期会長候補者	100
(4) 副会長候補者・専務理事候補者	101
4.2.2 選任選出手続きの変遷	101
4.3 事業計画の策定と予算管理	104
4.3.1 事業計画・予算編成の流れ	104
4.3.2 予算管理の流れ	105
4.3.3 事業報告の流れ	105
4.4 会費・会員構成の変遷	106
4.4.1 会員種別の変遷	106
4.4.2 会費の変遷	108
4.4.3 会員数の推移	109
4.4.4 名誉会員の定義の変遷	110
4.4.5 フェロー制度の創設	112
4.5 事業規模の推移	113
4.5.1 会計の推移	113
(1) 創立から1995年度までの推移	113
(2) 総資産、総収入、収支差で見る創立以来の推移	115
4.5.2 会費収入の推移	116
4.5.3 主な収入源の推移	117
第5章 これからの土木学会	120
5.1 土木学会の現状と課題	120
(1) 土木学会の現状	120
(2) 土木学会の課題	120
5.2 土木学会のこれから	121
(1) 土木学会の役割と特徴	121
(2) 土木学会の今後の活動	122
第6章 歴代会長の証言	129
第66代 仁杉 巖 土木学会への提言	130
第76代 内田隆滋 一鉄道土木屋の回想	132
第77代 堀川清司 昭和の終りから平成の初期に土木学会の役員を務めて	135
第82代 中村英夫 80周年記念事業、そして阪神・淡路大震災発生。調査団団長として現地入りし、 報告会開催へ	138
第83代 小坂 忠 日本建築学会と合同の震災調査報告書づくりと、海外交流・支部活動 の活性化	141
第84代 松尾 稔 災害緊急対応部門、企画運営連絡会議、技術推進機構の発足、JSCE2000の 策定など、一連の学会改革を通じ、組織に進化性を加える	143
第86代 岡田 宏 プロジェクト評価による信頼の回復と、国際化への対応により、土木の 存在感を高める	146

第 87 代	岡村 甫	土木技術者の技術レベルを高め、評価し、活用する仕組みとしての 技術者認定制度の創設に取り組む	148
第 88 代	鈴木道雄	21 世紀の日本における社会資本整備と技術開発の方向性を 2000 年レポート に結実	150
第 89 代	丹保憲仁	地球環境問題が国際的な課題となるなかでシビルエンジニアとしての 役割を考える	153
第 90 代	岸 清	土木技術者個人の顔が市民に見えるようにインターネットで一般の人 と議論できる、双方向コミュニケーションのシステムを立ち上げる	156
第 91 代	御巫清泰	土木技術者の気概の向上と、社会とのコミュニケーションの改善に努める	158
第 92 代	森地 茂	JSCE2000 の策定、そして会長施策の長期計画を通じて、技術力の維持と 土木技術の社会的評価の向上を目指す	160
第 93 代	三谷 浩	土木学会への期待	163
第 94 代	濱田政則	社会への発信、組織と活動の活性化、そして土木技術者の未来	166
第 95 代	石井弓夫	土木学会会長としての 5 つの目標	169
第 96 代	栢原英郎	「社会からの謙虚な受信」と「土木の無名性からの脱却」	172
第 97 代	近藤 徹	経営の安定化と次世代の土木への展望	174
第 98 代	阪田憲次	東日本大震災	177
第 99 代	山本卓朗	土木界をリードできるパワフルな学会組織の構築を	180
第 100 代	小野武彦	土木界のガラパゴス化を防ぐために	183
第 101 代	橋本鋼太郎	社会に貢献する土木学会を目指して～産学官および市民の連携から 新しい公共の創造へ～	187
第 7 章 土木学会と私			193
	青山俊樹	若人への期待	193
	天野玲子	土木技術者女性の会と土木学会誌編集委員会	194
	家田 仁	土木学会の ^{かたぎ} 気質～非常時／変革期に現れる組織の真価～	195
	池田駿介	土木学会の私の回想録	196
	五老海正和	JR 中央線の車窓から土木会館を目にして思うこと	197
	石橋忠良	学会示方書とのかかわり	198
	石塚 健	土木学会と共に歩んだ 39 年間	199
	石原研而	土木学会の思い出	200
	磯部雅彦	「人を育て、人に支えられる土木学会」	201
	井上啓一	土木学会との約 50 年のつながり	202
	岩熊まき	土木学会の先見性を思う	203
	魚本健人	コンクリート標準示方書の重要性	204
	大垣眞一郎	拡大から縮小の処方箋そして対話する環境工学	205
	大石久和	土木の日・実行委員長の思い出	206
	大島一哉	企画委員会 2000 年レポートの作成	207
	大西博文	技術の総合性を具現する土木学会	208
	岡村美好	出会いに導かれて	209
	岡本義喬	感謝とともに	210
	落合英俊	学会の活動理念の再構築と学会改革策に関わって	211

角田與史雄	初の PRC 橋の設計の経験から	212
片山功三	13 年余の学会事務局勤務を振り返る	213
金井 誠	42 年の技術者人生を振り返り、後輩に送るエール	215
嘉門雅史	関西支部に育てられ	216
川島一彦	学術的バックボーンであった土木学会	217
河田恵昭	私の学会活動の総括	218
河村忠男	「KUROKO」失格のはみ出し事務局員の記	219
木村 亮	長く関わった 2 つの仕事	220
日下部 治	ACECC 誕生への 3 年半	221
草柳俊二	土木学会に生きる技術者の精神	222
楠田哲也	土木学会における環境分野の展開	223
河野 宏	津波	224
小長井一男	土木学会の地震被害調査	225
小林潔司	土木学会のこれからの 100 年をみつめて	226
小松 淳	デジタルメディアと「土木」	228
小松登志子	女性会員 50% の時代へ	229
佐々木 葉	私と土木学会	230
佐藤厚子	私にとってのこれまでの土木学会とこれからの土木学会	231
佐藤恒夫	頼れるパートナー、土木学会	232
佐藤直良	土木の飛躍に向けて	233
篠原 修	学会ですか協会ですか	234
鈴木幹啓	土木技術者の集う学会に 乾杯	235
住吉幸彦	ACECC とともに	236
高橋 薫	土木学会に感謝をこめて。	237
高橋 裕	編集委員会などとの付き合い	238
高松正伸	出版委員会奮戦記	240
竹村公太郎	近世から近代、そしてポスト近代へ —低炭素の流域社会の構築—	241
田崎忠行	2000 年仙台宣言	242
谷口博昭	土木学会の活動を通して想うこと	243
玉木 明	切手デザイン雑感 ～ 国造りに触れて ～	244
富岡征一郎	土木学会の広報活動と「土木の日」の制定	246
長瀧重義	ISO と土木学会	247
西川和廣	国の研究職員と土木学会	248
西脇芳文	新しいニーズに対応して	249
橋口誠之	広報活動の大切さ	250
葉山莞児	託す	251
廣瀬典昭	コンサルタント委員会での活動	252
廣谷彰彦	家族が集える学会活動とは	253
藤野陽三	人を育てる場	254
藤本貴也	「土木工学科」への再統一による「土木」の復権と土木学会の役割	255
古木守靖	土木学会と私	256
堀 正幸	土木学会と私の関わり	259

正木啓子	土木学会女性会員として	260
松浦茂樹	図書館からの発信	261
松本香澄	縁の下の力持ちとして	262
丸山久一	学会での調査研究活動を通して得たもの	263
三木千壽	土木学会誌	264
道奥康治	土木学会から賜った様々な初体験	265
宮川豊章	学園紛争の後遺症と技術者	266
三好逸二	土木学会の改革策（JSCE2000）	267
村尾公一	土木コレクション更なる発展を祈念して	268
村田 進	土木学会と市民参加	269
山川朝生	建設マネジメントから国際センターへ	270
山田郁夫	日々研鑽あるのみ	271
山田 正	土木学会事務局と私	272

第2部 活動記録編（第2部および第3部は詳細目次を含めCD-ROM版に所収）

第1編 本会創立の背景	273
第1章 工部省と工部大学校	273
第2章 主要学協会の創立	274
第3章 工学会の創立と工学系学協会の独立	274
第4章 本会の創立	275
第5章 明治期の土木教育—会員の有資格者を探って—	275
第2編 創立から第二次世界大戦終了までの活動—1914～1945—	279
第1章 創立の経過と組織の流れ	279
第2章 戦前の事業	291
第3章 各支部の設置状況	302
第3編 昭和20年から50年間の活動—1945～1994—	305
第1章 再建に向けて	305
第2章 学会活動の基礎がため	306
第3章 組織の移り変わり	314
第4章 事業の概要	338
第5章 周年記念事業	366
第4編 平成期の活動（I）—1995～2004—	375
第1章 1995年からの10年間の主な出来事	375
第2章 学会と社会とのかかわり	381
第3章 学会の動き	387
第4章 創立90周年記念事業	411

第5編 平成期の活動（Ⅱ）—2005～2014—	415
第1章 2005年からの10年間の主な出来事	415
第2章 学会と社会とのかかわり	428
第3章 学会の動き	459
第4章 創立100周年記念事業	491
第6編 委員会	503
第1章 企画部門	504
第2章 コミュニケーション部門	517
第3章 国際部門	529
第4章 教育企画部門	549
第5章 社会支援部門（旧災害緊急対応部門）	562
第6章 調査研究部門	565
第7章 出版部門	913
第8章 情報資料部門	942
第9章 総務部門	962
第10章 財務・経理部門	983
第11章 会員・支部部門	987
第12章 技術推進機構	992
第7編 支部および事務局	1019
第1章 各支部	1019
第2章 本部事務局	1160
第8編 本会と関係機関および学協会との交流	1175
第1章 国内諸機関との関係	1175
第2章 海外との交流	1194

第3部 資料編

第1編 土木学会と私	1225
第2編 コラム集	1251
第3編 土木学会の歩み	1283
1. 名誉会員推挙者一覧	1283
2. 功績賞受賞者略歴	1285
3. 土木学会役員一覧	1306
4. 関係機関の要職経験者	1343
5. 土木学会賞受賞者一覧	1350
6. 土木学会映画コンクール入賞作品一覧	1444
7. 選奨土木遺産一覧	1449
8. 災害緊急調査団	1471

土木学会の100年

9. 土木学会総会における講演一覧	1477
10. 行事一覧	1479
11. 土木学会出版物一覧	1566
12. 土木学会の改革策	1649
13. 仙台宣言	1697
14. 倫理規定	1699
15. 公益法人移行宣言	1703
16. 土木年表・学会年表	1708

編集を終えて